

自然環境保全の 取り組み

自然環境保全の取り組み

季節感のある森づくり

1. 自然共生型の森林整備（間伐と樹種転換）

公園建設時に、自然豊かな森作りをめざす自然共生型森林整備事業に着手しました。購入した国有林の多くが植林後の手入れが不足したヒノキ林でした。土砂流出防備林の機能を高め、花や実、紅葉などの季節感のある明るい森にする目的で、0～60%の間伐試験区を作りその後の経過を観望しました。生物多様性のある森に再生するために40%程度の間伐が適当であると評価し、強間伐を実施しました。また、大きく切り開いた場所（ギャップ）を作り、ヤマザクラやコナラ、ケヤキなどの野生の落葉樹を植えました。

運動公園が整備される以前は山の数か所に大きな鉄塔が立ち、エコパの森の上を電気の高圧鉄線が横切っていましたが、中部電力の協力を得て公園内の送電線の地中化を実現しました。エコパの森は峰が織りなす神々しい景観を取りもどしました。広い施設やアクセス道路を建設する際にできる切土法面を緑化することは、山体の崩れを防ぎ自然植生を保つ上で大切なことです。そこに外来植物の持ち込みを禁じ自然植生の回復を見守りました。

現代人の求めるウェルネス（充実した健康生活）は、単に病気でない状態でなく、人それぞれに生き生きとした楽しみや生きがいを求めるものです。エコパは人々の期待に応えるために、季節感や豊かな自然に触れ合える環境整備に努めています。総合運動公園としてスポーツや競技だけでなく、子どもから高齢者までの心身ともに健康的なライフスタイルを提案して来しました。エコパの森が持つ生物多様性の保全に継続して取り組んでいます。

オオタカ

3. オオタカ保護から小笠山環境巡視へ

競技場建設中に絶滅危惧種のオオタカが近くの森で繁殖していることが分かり、保護対策に取り組みました。オオタカの生活や繁殖の進行を監視し、工事内容や工程を調整しました。その後、営巣場所は周辺の森に移りましたが、今でもエコパの森でエサを捕り繁殖を続けています。また、生態系の異変に気づき対策を講じる仕組みとして、広い公園内の自然環境を定期的に巡視・点検し、保全対策を検討する会合を建設時からずっと続けています。